



公立大学法人

静岡文化芸術大学

SUAC

2021
秋号
vol.13

広い風

広報誌

特集一 産学官連携を通じ、社会に役立つ人材を育む



SUAC 2021

亀井 社会環境が目まぐるしく変わる世の中であつて、社会が求める人材も変化して

亀井 依頼への取りくみ方に学生が悩んでいるときには、発注者が置かれている立場や、その依頼が生まれた理由など、プロジェクトの背景を考え、総合的に答えを探るよう指導しています。プロジェクトを進めるにあたりては、大学院生を中心に時には学部生も一緒に取りくんでいます。同級生や先輩がどのように考えるかを見ることも勉強になります。大学院生と学部生の連携も重要で、教員も

寒竹 オンライン授業やバーチャル演習だけだったら、東京の大学はもちろん、ニューヨークやロンドンにある大学に進学する人も増えてくるでしょう。しかし本学では、受託事業・共同研究を経験することで、さまざまな学びを得られます。大学と自治体、地元の産業界が互いに近い場所にあるからこそ実現する、恵まれた大学だと思います。

亀井 依頼への取りくみ方に学生が悩んでいるときには、発注者が置かれている立場や、その依頼が生まれた理由など、プロジェクトの背景を考え、総合的に答えを探るよう指導しています。プロジェクトを進めるにあたりては、大学院生を中心に時には学部生も一緒に取りくんでいます。同級生や先輩がどのように考えるかを見ることも勉強になります。大学院生と学部生の連携も重要で、教員も

寒竹 建築系の受託事業・共同研究は、設計・監理の実務なんです。授業であれば60点を取れば単位を取れますが、デザインの仕事となると、120点以上の内容でなければ次の仕事は来ません。高校まではあらかじめ用意された問題を解くだけでよかった。正解も用意してあるので100点以上はあり得ない。受託事業・共同研究の場合、発注者は県や市だったりしますが、発注者の言うことが必ずしも全てではありません。施設の提案であれば、それを使う人の意見も聞かなくてはいけなくて、発注者と利用者との間にズレとか矛盾が出てきます。さらにコストの問題もある。しかし、社会ではそれが当たり前。複雑に絡み合った問題や矛盾を自分なりに解決していかないと答えは出ないんです。

亀井 オンライン授業やバーチャル演習だけだったら、東京の大学はもちろん、ニューヨークやロンドンにある大学に進学する人も増えてくるでしょう。しかし本学では、受託事業・共同研究を経験することで、さまざまな学びを得られます。大学と自治体、地元の産業界が互いに近い場所にあるからこそ実現する、恵まれた大学だと思います。

寒竹 建築系の受託事業・共同研究は、設計・監理の実務なんです。授業であれば60点を取れば単位を取れますが、デザインの仕事となると、120点以上の内容でなければ次の仕事は来ません。高校まではあらかじめ用意された問題を解くだけでよかった。正解も用意してあるので100点以上はあり得ない。受託事業・共同研究の場合、発注者は県や市だったりしますが、発注者の言うことが必ずしも全てではありません。施設の提案であれば、それを使う人の意見も聞かなくてはいけなくて、発注者と利用者との間にズレとか矛盾が出てきます。さらにコストの問題もある。しかし、社会ではそれが当たり前。複雑に絡み合った問題や矛盾を自分なりに解決していかないと答えは出ないんです。

かめい あきこ
亀井 暁子
デザイン学部 デザイン学科(建築・環境領域)
大学院デザイン研究科 教授

産学官連携から得られる学び

寒竹 建築系の受託事業・共同研究は、設計・監理の実務なんです。授業であれば60点を取れば単位を取れますが、デザインの仕事となると、120点以上の内容でなければ次の仕事は来ません。高校まではあらかじめ用意された問題を解くだけでよかった。正解も用意してあるので100点以上はあり得ない。受託事業・共同研究の場合、発注者は県や市だったりしますが、発注者の言うことが必ずしも全てではありません。施設の提案であれば、それを使う人の意見も聞かなくてはいけなくて、発注者と利用者との間にズレとか矛盾が出てきます。さらにコストの問題もある。しかし、社会ではそれが当たり前。複雑に絡み合った問題や矛盾を自分なりに解決していかないと答えは出ないんです。

寒竹 建築系の受託事業・共同研究は、設計・監理の実務なんです。授業であれば60点を取れば単位を取れますが、デザインの仕事となると、120点以上の内容でなければ次の仕事は来ません。高校まではあらかじめ用意された問題を解くだけでよかった。正解も用意してあるので100点以上はあり得ない。受託事業・共同研究の場合、発注者は県や市だったりしますが、発注者の言うことが必ずしも全てではありません。施設の提案であれば、それを使う人の意見も聞かなくてはいけなくて、発注者と利用者との間にズレとか矛盾が出てきます。さらにコストの問題もある。しかし、社会ではそれが当たり前。複雑に絡み合った問題や矛盾を自分なりに解決していかないと答えは出ないんです。



産学官連携を通じ、社会に役立つ人材を育む

「社会に貢献する大学」を基本理念の一つに掲げる本学には
教員の専門知識や学生の若い感性を求め、企業や行政などから
共同研究や受託研究、受託事業の依頼を数多くいただきます。
建築系受託事業・共同研究を例に、その目的や意義を語っていただきました。



かんたけ しんいち
寒竹 伸一
副学長
大学院デザイン研究科
特任教授

本学における産学官連携

共同研究

民間企業や自治体・団体等
学外の機関(学外機関)と本学が
共通の課題について行う研究。
本学への学外機関の
研究員の受け入れが可能。

- 例 ……………
- アプリ開発
 - ユニバーサルデザイン検討
 - 建築設計



心臓マッサージ実習用教育教材
「Dock-kun (ドックン)」



企業PR動画の制作



「コロロ」日みかん」
パッケージデザイン



「ミカちゃんLINEスタンプ」
デザイン



地震体験車新型車両デザイン

受託研究

学外機関からの
委託を受けて行う研究。
その研究成果の
帰属は協議により決められる。

- 例 ……………
- 行政基礎調査
 - 社会調査

受託事業

学外機関からの委託を受けて
制作、調査等の業務を行う事業。
その成果は委託者に
成果品等として提出・報告する。

- 例 ……………
- 起震車車体デザイン
 - 小学生向け教材開発
 - 菓子パッケージデザイン
 - 地域の施設デザイン

産学官連携のプロセス

学外機関

静岡文化
芸術大学

- 受託事業・共同研究の相談・申込
- 受け入れ承認
- 契約締結
- 成果報告
- 事業費・研究費の請求
- 事業費・研究費の納付

本学との産学官連携をお考えの方は、
以下までご連絡、ご相談ください。

静岡文化芸術大学 地域連携室
Tel. 053-457-6105 E-mail: chiiki@suac.ac.jp

文芸大の強さのひみつ

寒竹 学生から期限内によい案が出てこなければ、私たちが120点レベルの案のひとつを提示しなければいけません。彼らは何度も悩み考えているから、私たちが投げかけた案を見たときの気つきは非常に大きいものがあります。はじめからひとつの方向性を見せては血肉になりません。受託事業・共同研究は、学生にとって非常に体力が付くものなんです。



富士山ドラゴンタワー(静岡県富士市)竣工日

の中に仮説やアイデアがあつて、それをブラッシュアップするために調べることで、知識が定着します。また、文芸大には金属や木工をはじめ、製図やCADといった工房があり、手を動かすトレーニングを受けているので、手の感触みたいなモノを生かしながらプロジェクトに入っている。カリキュラム全体と受託事業・共同研究が、うまくリンクしていると思います。

寒竹 よく勘違いされるのですが、アイデアはある時ひらめいてポンと出てくると思いがちです。ひらめくためには知識のほか、さまざまな記憶、経験、対話が必要で、それらがつながつて初めてアイデアが生まれるんです。20歳前後の学生の知識と経験だけでは、建築のアイデアは出にくいと思います。だから学生は本当の勉強をするようになる。高校とは違う勉強が始まるんです。例えば大学のキャンパスの設計をするとなったら、大学はいつから始まったのか、教育とは何か、日本の大学と海外の大学の違いなど、学ぶべきこと、調べることはたくさんあります。自分は実は何も知らなかったんだと分かることも大切なトレーニングです。

亀井 調べていく中で、時にはアウトプットを想定しながら調べることも大切です。自分

寒竹 デザイン学部に限っていえば1学科になつたことで、グラフィックから都市計画まで、みんな一緒に学んでいる。都市計画だけを学んでいると俯瞰してみる鳥の目しか持てませんが、グラフィックなどを学ぶことで細部にもこだわる虫の目も養われます。建築だけでなく、グラフィックやプロダクトデザイン、サウンドなどを学ぶ仲間から刺激を受けることで、これまでの建築とは違う多様な捉え方をした建築ができるのではないかと期待しています。

亀井 寒竹先生と一緒に担当した「富士山ドラゴンタワー(ふじのくに田子の浦みなと公園交流拠点施設)」は息の長いプロジェクトで、何度もプレゼンをし、設計監修だけで2年ほどかかりました。竣工式には社会人になった学生も参加し、何年も前に取り組んだプロジェクトの完成を一緒に喜んだのを覚えています。

寒竹 基本構想から設計、完成まで5年ほどかかりました。そうなるという人の学生が最後まで見届けることはできないので、後輩たちにリレーしていかなくてはなりません。つなぐこともトレーニングのつなぐんです。

亀井 地域のプロジェクトに取り組むことで、学生の関心が建築からまちづくりに拡がることもあります。受託事業・共同研究に取り組んだことをきっかけに視野が広がり、学外で地域のプロジェクトに参加する学生もいました。大学と地域の共創関係が生まれていると言っているかもしれませんね。

農林環境専門職大学・学生寮(模型)

2020年4月、120余年の歴史がある「静岡県立農林大学校」が「静岡県立農林環境専門職大学」へ移行するにあたり、既存校舎等の改修、新築校舎、学生寮の新築設計、全体の外観計画を静岡県から依頼されました。自然と人間の関係を意識し、校舎群をデザインしました。



受託事業・共同研究の事例

農林技術研究所茶業研究センター

- 所在地／静岡県菊川市
- 委託者／静岡県
- プロジェクト期間／2019年9月～(継続中)

老朽化が進んでいる茶業研究センターのリニューアルにあたって、「茶の都しずおか」に相応しい外観を有する施設として、新庁舎や外構等について、本学がデザインを担当した「ふじのくに茶の都ミュージアム」との統一感あるデザインを検討しています。



ふじのくに茶の都ミュージアム

- 所在地／静岡県島田市
- 委託者／静岡県
- プロジェクト期間／2015年11月～2018年3月

ふじのくに茶の都ミュージアムの基本設計と実施設計監修・工事監理を行いました。今までのアプローチを変更し、天竜杉を使用した吹き寄せ壁の外観や間道模様を活用したレストラン、ミュージアムショップなど、茶人・小堀遠州の「綺麗さび」の考え方に基づいたデザインとなっています。2018年3月の開館以降、多くの来場者が訪れています。



袋井幸浦の丘プロジェクト

- 所在地／静岡県袋井市
- 委託者／袋井市
- プロジェクト期間／2018年7月～(継続中)

浅羽海岸防潮堤と周辺施設を含めた利活用について、地元主体で検討していくための契機づくりを目的としたワークショップ運営を数年度にわたり継続して行っています。地域の方々が主体的に企画を考案し実施するワークショップを通じて、防潮堤への親しみを深め住民の方々の将来の活動へつながることを期待しています。



静岡県立農林環境専門職大学

- 所在地／静岡県磐田市
- 委託者／静岡県
- プロジェクト期間／2018年6月～(継続中)

静岡県立農林大学校が、静岡県立農林環境専門職大学に移行するにあたり、新校舎と既存校舎の建築デザインを提案しました。農業を象徴する高床式をモチーフにした新校舎や学生寮の新築設計と、それらを含めた外構計画を行いました。自然と人間の関係が空間に現れるような校舎群のデザインです。

現場で活かす

三井デザインテック株式会社 デザイン職
小野 夏香さん
(大学院デザイン研究科 2020年修了)

共同研究では、課題と違い、より高い成果や社会人さながらの対応を求められました。それにより社会人基礎力が養われ、現在業務を進める上でのやりとりも苦勞なく行えています。また自分の礎となるデザインの考え方を突き詰めていく期間となりました。建築の枠を超えて、様々なスケールのデザインを、学問の領域から実務レベルで追求していくことは、自分の見識を深めることにつながりました。それらはあらゆる手段からお客様の問題解決が求められる今の仕事にとっても活かしているように感じます。

現場で学ぶ

佐々木 万季さん
(大学院デザイン研究科 2年)

受託事業は、研究室のメンバー、県の方々、設計事務所の方々などたくさんの人と協力して進めていきます。異なる立場の人たちとチームとなり、様々な意見や考え方をとりまとめ形にしていくプロセスを知る、貴重な経験になりました。また、学部生の頃の課題とは違い、実際に建物ができあがるプロジェクトなので設計事務所とのハイレベルな打ち合わせに参加し、建築について学ぶことが出来る点も魅力だと感じています。

静岡県立工科短期大学校(静岡キャンパス)

- 所在地／静岡県静岡市
- 委託者／静岡県
- プロジェクト期間／2018年7月～(継続中)

2021年に開校した静岡県立工科短期大学校（静岡キャンパス）の基本設計及びデザインを行いました。本校舎と実習棟は回遊性のある動線計画とし、校舎群に周囲の環境をとりこんだ配置とするなど、学生が行き交う内部空間を目指しました。敷地北側の梶原山が背景となる庭は全体を植栽で囲み、巴川からの風も通り抜け、地域住民の憩いの場となります。



TOPIC 03

ゲスト講師をお迎えした講義が行われています

本学では、さまざまな講義でゲスト講師をお迎えした特別講義が行われています。特別講義では、実際に現場で働く講師の声や経験を伺うことができ、学生にとっては貴重な機会となっています。また行政・企業等で実務経験のある本学教員による講義でも、これまでの経歴を活かした特色ある講義が展開されています。本学Webサイトでは随時講義レポートをご紹介しますので、ぜひご覧ください。



本学大学院修了生 鈴木結子さん（静岡県障害者文化芸術活動支援センター・みらーと）



舞踏家 大前光市さん

TOPIC 04

「文化芸術体験演習」の最終講義で講師の実演を鑑賞しました



本多厚美さん



桂文治師匠

本学の特色あるカリキュラムの一つ「文化芸術体験演習」は、本格的な芸術文化の体験や演習によって知性と感性を磨く講義です。全ての学生が入学後に最初の必修科目として履修します。今年度はこれまで取り上げられてきた「俳句」「茶道」に代わり、「落語」「歌唱」を新たに採用。「写真」「狂言」をあわせて4つの分野を学びました。講師として「落語」は桂文治師匠（落語芸術協会）、「歌唱」は声楽家・本多厚美さん（二期会会員）をお迎えし、最終講義ではお二人の実演を鑑賞。SUACの学生だけの特別公演となりました。

TOPIC 01

卒業生の活躍の様子が届いています

昨年20周年を迎えた本学は、これまでに多くの卒業生が社会に羽ばたいていきました。そんな卒業生の皆さんの活躍の様子が本学に届いています。その中の一部をご紹介します。

デザイン学部生産造形学科 2009年卒業

松田 優さん、谷 雄一郎さん
(UOデザイン事務所共同主宰)

個人事務所で活動していた松田さんと、モーターサイクルのスタイリング開発デザインに携わっていた谷さんが、2020年にデザイン事務所を設立。デザインを担当した水性ゲルインキボールペン「Ballsign iD」（サクラクレパス社）が、著名なデザイン賞である「レッドドット・デザイン賞2021:プロダクト部門」を受賞しました。



デザイン学部技術造形学科 2006年卒業

三浦佑介さん
(design office shubidua主宰)

卒業後、広告制作会社デザイン部を経て2011年に独立し、ロゴタイプやパッケージ等のグラフィックデザインを多く手掛けている三浦さん。今回、三浦さんに本学敷地の北西にある広告看板の新デザインを依頼しました。青色を基調としたタイポグラフィがメインとなった爽やかなデザインです。



TOPIC 02

学生有志グループが「消費者教育教材資料表彰2021」優秀賞を受賞しました

学校における消費者教育の充実・発展に寄与することを目的に、教育現場で役立つ優秀な教材に対して表彰を行う「消費者教育教材資料表彰2021」（主催：公益財団法人消費者教育支援センター）において、本学学生有志グループ「エシカル消費・教材作成プロジェクト」が優秀賞を受賞しました。受賞した教材は、浜松いわた信用金庫様からの受託事業として2020年度に本学が企画作成に取り組んだもので、エシカル消費を理解するための小学生向けの教材です。企画作成には本学学生有志によるプロジェクトが立ち上げられ、国際文化学科から6名、デザイン学科から3名が参加。両学部協働で内容構成からデザインまでを行いました。



静岡文化芸術大学基金（教育研究支援・修学支援事業）寄附者ご芳名

（令和3年1月1日から令和3年7月31日まで）

ご寄附を頂戴した方々のご厚意に心から感謝を申し上げますとともに、謹んでご芳名を掲載させていただきます。頂戴したご寄付は、学生の海外留学や自主活動への支援に充てさせていただきます。皆様には引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄附金額 1,246,000円（内訳：教育研究支援178,000円、修学支援事業1,068,000円）

寄附者ご芳名（五十音順、敬称略）【個人】

石川悠里子	今西宏昭	請井莉子	川名聡	喜多奏太	熊田知優
熊田洋之	桑野智子	小林あい	鈴木善彦	竹内有美	恒枝碧
中井綾	長谷川真吾	長谷川紀幸	早矢仕清貴	樋口摩耶	古水しおり
古屋孝人	星原守雄	森田亘	山本幸司	山本由美	

※ご芳名の掲載を希望されなかった方(20名)を除いて掲載しております

エドワード・ピアース・サリッチ

Edward Pearce SARICH 教授

文化政策学部 国際文化学科

研究分野

【言語学習評価、語彙学習、協同学習】

憧れの音楽の道、そして日本へ

大学での専門は心理学でしたが、卒業後は

平原が広がる都市で育った少年
カナダ中西部に位置するサスカトゥーン市の出身です。山や海がない真つ平らな土地で、カントリーミュージックなどを聴いて育ちました。田舎に農業を営む祖父が住んでいて、夏休みにはいつも過間ほど滞在。街の子の私が「田舎はつまらない」と主張したところ、祖父から与えられたのは害鳥駆除用のシヨットガン。今考えるとすごいですね。広い農地を2時間ほど走り回っても何も出来なかったのは当たり前で、祖父が教えたかったのは、農業は想像するより簡単ではない、ということだったのではないかと思います。長生きの祖父でした。

両親や兄、姉、妹は皆カナダにいますので、2年ごとに帰国しています。日本に遊びに来てくれたときには、浜松を案内しました。

Profile

カナダ出身。2013年静岡文化芸術大学講師、准教授を経て、2020年より現職。
修士(応用言語学)。日本における英語教育、特に言語力評価、協同学習、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング(CLT)、第二言語の語彙習得が専門。ここ10年は英語ワークショップを主催し、アドバイザーを務めている。
趣味はバスケットボールとピアノ。

第二言語習得のために大切なこと

高校教員を辞め、応用言語学の修士号を取得しました。研究分野は、第二言語としての英語教育。ワークショップや実践を通してより良い教育方法を考えています。第二言語を習得するために必要なのは、リスニングやスピーキングなど、それぞれのスキルを「自動化」するまで練習し、それらを組み合わせること。授業の中だけでなく、継続して学習し続けることが重要です。

デザイン学科と国際文化学科の学生が共同で行っているトルコイズミル経済大学とのデザインワークショップや模擬国連への参加はその一環です。学生自身が英語学習の必要性を感じるきっかけを作ることが目的で、教師である私たちはその補助をするだけ。例えば、幼い子どもが自転車に乗る練習をしているときに、親がずっと後ろで支えているようなことはせず、困ったとき

興味のある音楽学校に進み、ピアノを専攻。両親からの援助はなかったため、国からの奨学金でやりくりしました。しかし同級生を見回すと自分より優秀な人たちがばかりで劣等感を感じ、「何のために音楽をやっているのか」と疑問に思うようになり。そんなとき、日本で働かないかと友人から誘われ、奨学金の返済もあったので、期間限定と決めて来日しました。そのときに初めて暮らしたのが浜松市です。

そのあと、兵庫県庁での国際交流の仕事に携わり、その後また浜松に戻って高校や中学校で英語を教える機会など得て日本で暮らすようになり、今年で来日30年。もともと新しいものを受け入れるのが苦手なタイプでしたが、カナダを出て広い世界を見たことで、様々なことにトライするようになったと思います。



23歳頃、カナダにいたときのサリッチ先生。



気分転換に研究室にあるピアノを弾くことも。

< サリッチ先生が選ぶ一冊 >

『Thinking, Fast and Slow』(2011年)

著: Daniel Kahneman
出版: Farrar, Straus and Giroux(New York)

認知心理学者、ダニエル・カーネマンの代表作。私たちが合理的に正しい判断をしているかどうか、判断のエラーに陥るパターンやその原因を行動経済学・認知心理学的実験で解明している。

PICK UP STUDENT

川根本町に移住し地域おこし協力隊として活動する

わたなべ みゆ
渡辺 実優さん

(デザイン学部 デザイン学科4年)

渡辺さんは、大学で学ぶデザインを活かして、
在学中から川根本町に移住して地域活性化の活動をしています。

——川根本町の「地域おこし協力隊」に任命されたといいました。
経緯と仕事内容を教えてください

大学3年の時に「大学生観光まちづくりコンテスト」に友人3人と参加したのがきっかけです。デザイン学科の黒田教授のすすめで、川根本町をターゲットにして「観光×移住」を組み合わせたプランを考案。その活動の中で川根の観光地としての魅力を知るうちに、人の好さや独特の空気感に触れ、次第に川根本町の魅力に惹かれていきました。

私自身、都会よりも田舎で暮らしたいと考えながらも、仕事の面では不安が。そんな折に、川根本町から地域おこし協力隊の募集がありました。地域おこし協力隊とは総務省の制度で、都市地域から過疎地域に移住し、地域協力活動を行いながら隊員の定住を図る制度です。地域おこし協力隊ごとに与えられたミッションは違うのですが、川根本町では「観光コンテンツの企画」と「地域・観光の情報発信」が主な仕事です。

いくつか地域活性化に関わる活動をしていたこともあり、そこから学んだことを活かして実際に町を元気にしていきたいという思いが強く、地域おこし協力隊としての移住を決意しました。現在は、観光地の情報が様々なWebサイトなどに分散していることに着目して、Web上のマップを利用した情報の統一、観光マップの作成などを行っています。



川根本町の風景

——大学で取り組んでいた活動はどんなことでしょうか。

浜松に魅力を感じる学生が増えてほしいと考え、「三方原大根プロジェクト」を立ち上げました。土臭いイメージの大根をブランディングして、イメージアップを図るプロジェクトです。

有志の学生12名を集め、パンフレット等の作成、大根を使った郷土料理「遠州焼き」を現代版にアレンジし、駅前でのPR活動と「遠州焼き」の販売等を行いました。

このプロジェクトでは、私は主に立ち上げやマネジメントを担当。初めて自分の考えが形になり人に伝わっていく体験をしました。町の人の地元を元気にしたいという思いに、私が大学で学んだデザインやその考え方でサポートできることにやりがいを感じました。ただ、楽しいことばかりではなく、プロジェクトメンバーの中でお互いの目指している方向に違いがでてしまい、話し合いが進まないこともありました。解決方法はとにかく話し合うことでした。

誰かと協力することで1人では出ないアイデアがたくさん湧いてきます。地域活性化は何か派手なことを考えるのではなく、声をかけあい、地道に進んでいくのだと知りました。



大根プロジェクト

——今後の目標をお願いします。

私の目標は、川根本町の住民が自分たちの町に自信を持ち、楽しいことにどんどん挑戦しようと思える町作りです。輝いている町には自分たちの活動や地域に誇りをもつ「人」がいます。自分たちの町が好きだからこそ情報を発信でき、新しいものや仕組みが生まれます。現在は主に移住者がその役を担っていますが、やはり若い頃から町をよく知る住民が地元を誇りを持つことが理想です。

そのために、現在は地元の人気がつかない魅力に移住者視点でまとめた冊子を作成しています。町の人がある「川根のデメリット」に惹かれて外から川根を訪れる人が多いからです。町の魅力を正しく知り、自信をもってもらうことが、町の人の自発的な活動に繋がります。中の人が楽しいと思うことを行えば、外の人も楽しそうだと寄ってくるからです。外から人が来ればそれに刺激され、住民の意識も高まり良いサイクルになります。

川根本町を内側から元気にすること、住んでいて楽しい町にすることが私にとってのもう一つのミッションです。



開催当日

Ch1 チャンネル 学科紹介 & 入試説明・留学説明

1日目

文化政策学科

は、在学生・卒業生へのインタビュー動画を制作。
在学生のリアルな声と行政や企業で活躍する卒業生からのメッセージを届けました。

国際文化学科

では、研究室訪問と教員からのクイズコーナー。
韓国文化や言語、日本語教育からのクイズにチャットが盛り上がりました。

2日目

デザイン学科

の工房紹介は和田学科長自らがロケを敢行。本学の充実した工房設備を紹介しました。
今回のオープンキャンパスの中で最も多くの視聴者にご覧いただき、デザイン学科への関心の高さが感じられました。

芸術文化学科

は2つの研究室から生中継。
ユニークな教員研究室の様子や音楽の生演奏など、「ゲイブ」独自の企画が好評でした。

2日間
共通

入試説明 文明観光学コース (文化政策学部) 留学説明

(事前録画)

2日間共通のコンテンツは事前収録映像でお届けしました。
本学独自の「文明観光学コース」のユニークさが
少しでも伝わったでしょうか？
留学説明では、留学経験者の卒業生も登場！
たくさんの写真を見せながら語ってくれました。



Ch2 チャンネル 放送部による学生特別コンテンツ！

チャンネル2は、本学公式サークル「放送部」によるコンテンツを配信。企画から当日の放送管理まで、すべてを学生が行いました。
スタジオと外をつないだ中継やフリートーク、サークル紹介など、工夫を凝らした企画で本学の魅力を伝えてくれました。



放送部 部長 吉原 美優 さん（芸術文化学科 3年）

私たち学生がSUACで楽しく過ごしている様子を伝えることが、放送部の第一の目的でした。そのために、企画立案や機器操作方法の習得などに試行錯誤しながら4月から練習を重ね、それにともなって私たち自身もこのキャンパスの魅力に気付かされながら、当日を迎えました。放送部にとっても、部長の私にとっても、大きく、新たなチャレンジだった今回のオープンキャンパスですが、たくさんの人に支えられながら、みんなで心と力を合わせ、なんとか、笑顔で楽しくゴールテープを切ることができたと思います。どうか画面越しのあなたに伝わっていますように。

OPEN CAMPUS ONLINE 2021 ドキュメント

今年のオープンキャンパスはYouTube ライブ配信と
ウェブ会議システム「Zoom」による個別相談会を実施しました。
教職員と学生がオンライン配信に挑んだ熱い夏をお届けします。



開催準備

コロナ禍でのオンライン配信に取り組んできたものの、長時間のYouTubeライブ配信は初めてのことでした。これまでに経験のある職員を中心に、配信機器の操作方法や動画編集などの技術を学び、鍛錬する日々。企画内容が2つのチャンネルで2日間にわたって開催することに決まると、各学科教員との打ち合わせとリハーサルを重ねました。収録映像とした放映内容は、学内の一室を改装した簡易スタジオで収録。編集も職員で行いました。放送部の学生たちも一から操作方法を勉強し、コンテンツを練り上げていきました。



職員のリハーサルの様子

配信スケジュール

8.7 (土)

YouTube Ch1

YouTube Ch2

Zoom

10:00 ~ 11:00

LIVE
文化政策学科

LIVE

個別相談会
(予約制)

11:15 ~ 11:45

入試説明

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

11:45 ~ 12:00

文明観光学コース

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

12:15 ~ 12:45

留学説明

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

13:00 ~ 14:00

LIVE
国際文化学科

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

8.8 (日)

YouTube Ch1

YouTube Ch2

Zoom

10:00 ~ 11:00

LIVE
デザイン学科

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

11:15 ~ 11:45

入試説明

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

11:45 ~ 12:00

文明観光学コース

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

12:15 ~ 12:45

留学説明

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

13:00 ~ 14:00

LIVE
芸術文化学科

放送部による
学生特別
コンテンツ！

個別相談会
(予約制)

延べ視聴者数：Ch1…1日目4,193回／2日目2,887回 Ch2…1日目・2日目 合計2,355回



新 任 教 員 紹 介



荒川 朋子

今年度より着任いたしました荒川朋子と申します。専門はテキスタイル(織)です。テキスタイルは世界各地で多種多様なテクスチャを持ち、地域文化を映す鏡の様に発展を続けております。その日々の暮らしからアートシーンまで演出し表現できる創造性と柔軟な思考を通して、広い視野と社会に求められるデザインの提案力を伝えていきたいと思ひます。

ARAKAWA Tomoko / / / デザイン学科 准教授

演習授業においては完成までの緻密な設計力、五感を研ぎ澄まし感じ取ること、そして能動的に手を動かしモノを作ることから得られる観察力、考察力、想像力、創造力、発見力の大切さを伝えていきます。また、遠州織物を通して地域の方々と連携するなど、本学に求められる地域の役割にも積極的に関わって参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



植田 道則

今年度よりデザイン学科に着任いたしました、植田道則と申します。専門はインテリアと建築です。昨年まで建設会社の設計部に所属し、デザイン・生産の実務の最前線にいました。そこで、経験した在来木造技術の継承問題を機に、本学において地域工務店と連携した《デザイン・エンジニアリング融合により技術継承》をテーマに研究に取り組んでいます。また教育面では、学生達の日常生活の中にあるお気に入りの

UEDA Michinori / / / デザイン学科 教授

お店の考察《マイフェイバリットショップレポート》を通じ、学生達の志向や、デザインと社会潮流の関係をアクティブラーニング方式で検討する等、対話を通じた教育を実践しています。皆様のお力添えと共に、これまでの私の経験や、知識・技術を活かし、静岡県ならびに日本の芸術文化の深耕の《新しい碧い風》になれるよう、教育と研究に取り組んでいきたいと思ひます。



小林 淑恵

人口学や労働経済学をベースにしつつ、ライフコースにおける人生の様々な選択について研究しています。女性の家族形成や就業キャリア、また大学院の博士課程を修了した人材のキャリア形成など、追跡データを用いて分析を行うことで、経年変化や世代間の違い、また行政施策の効果も測ることが出来ます。昨年度までは行政組織の中で仕事をしていたので、

KOBAYASHI Yoshie / / / 文化政策学科 准教授

大掛かりな仕事ができる反面、様々な制約がありました。今後は大学という自由な研究環境の中で、あらためて自分自身の研究に向き合いつつ、静岡は出身地でもありますので「静岡愛」全開で地域の方々と連携し、仕事の幅を広げていきたいと思ひています。どうぞよろしくお願い致します。



佐野 由紀子

今年度より国際文化学科に着任いたしました、佐野由紀子と申します。専門は日本語学で、日本語教員養成課程の授業等を担当しています。近年、専門的な知識を持った日本語教員の需要が高まっており、2019年には「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行されました。また現在は日本語教師の国家資格について検討されるなど、日本語教育を取り巻く状況

SANO Yukiko / / / 国際文化学科 教授

は大きな過渡期を迎えています。本学に着任して以来、浜松には多様な日本語学習者が在住しているとともに、多くの日本語教育関係者が精力的に日本語教育に携わっていることを実感しています。その中で、本学に求められる役割と、日本語教育が果たすべき役割の本質を考えながら、教育、研究を進めていければと思ひています。



丹羽 哲矢

今年度よりデザイン学部デザイン学科(建築・環境領域)に着任しました丹羽哲矢です。これまで組織設計事務所です12年間、主宰する設計事務所 clublab.(クラブラブ)で13年間、建築設計者として大規模建築物(病院・大学・高校・ホテル・複合事務所ビル・集合住宅等)から住宅まで幅広くプロジェクトを手掛けてきました。実務経験のある教員として、社会に必要とされる建築のあり方や、

NIWA Tetsuya / / / デザイン学科 准教授

プロジェクトの進め方、多くの人々に愛される場をいかに生み出していくかを伝えていきたいと思ひています。また、学生とともに地域に貢献する設計プロジェクトに取り組み、実践的な学びの機会を多く作り出していきたいと思ひています。文化と芸術から生まれる人間の根源的な喜びを感じ、それを継承しつつ発展させることができる人材が多く巣立つよう活動していきます。

キャリア支援室より

2020年度卒業生・就職状況報告

全体の就職率は92.6%となりました。コロナ禍による企業の採用抑制や採用スケジュールの変動的な動き等、例年になく就活環境に苦戦を余儀なくされましたが、最終的に9割以上の学生が就職先を決めることができました。

業種は、文化政策学部ではサービス(33%)小売(18%)製造(15%)金融(13%)が、デザイン学部ではサービス(48%)製造(32%)小売(10%)が主な就職先となります。

職種は、文化政策学部では事務(38%)販売(32%)サービス職(12%)が、デザイン学部ではデザイン関連職(デザイナー、設計職等 63%)が中心となっています。

就職した地域は、静岡県39%、東京都24%、愛知県13%となっています。

2021年度卒業予定者(現4年生)の就職活動は、コロナ禍の影響は残るものの、昨年度の教訓を生かした準備と対策を進め、現在しだいに結果を出しつつあるところです。

キャリア支援室では、最新の動向を注視しながら、近隣大学や地元自治体等とも連携し、学生一人ひとりの志望や活動状況に合わせてのアドバイスや求人情報の提供等きめ細やかな支援を行っています。

2020年度卒業生：就職状況(2021年3月31日現在)				(人、%)
	卒業生	就職希望者	就職者	就職率
文化政策学部	234	197	189	95.9
デザイン学部	104	74	62	83.8
合 計	338	271	251	92.6

主な就職先

文化政策学部

愛知県教育委員会、静岡県庁、(公財)静岡県文化財団、静岡市役所、(株)清水銀行、(株)サンノン化粧品、スズキ(株)、(株)SUBARU、(福)聖隷福祉事業団、とびあ浜松農業協同組合、トヨタカローラ静岡(株)、(株)ニトリ、日本生命保険(相)、日本放送協会、浜松市教育委員会、浜松市役所、(株)日立ソリューションズ、(株)マイナビ、ヤマハ発動機(株)、ローランドディー・ジー、(株)

デザイン学部

(株)あたらす二十一、(株)池下設計、(株)カインズ、グランドデザイン(株)、(株)ケイ・ウノ、(株)コルグ、山旺建設(株)、スズキ(株)、(株)セガ、セキスイハイム東海(株)、(株)東急設計コンサルタント、東芝テック(株)、トヨタ自動車(株)、(株)トロイカ、(株)ナビタイムジャパン、日立グローバルライフソリューションズ(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)宮本忠長建築設計事務所、ヤマハ発動機(株)、(株)類設計室

保護者会の実施

本年度の保護者会は、昨年度に引き続きオンラインで実施します。

コロナ禍の影響を受けにくい、遠隔地の方にも参加していただきやすい、といったオンラインの利点を生かしつつ、対面実施時のライブ感も維持した内容を提供できるよう準備を進めていますので、ぜひご参加ください。

■日 程 / 2021年12月11日(土)

午前：文化政策学部
午後：デザイン学部

■内 容 / 採用情勢についての講演、OB・OGGによるパネルディスカッション など

※当日参加できない方のために、当日の模様の後日配信も予定しています。



学内企業説明会



本学ではこれまで採用試験直前となる3年生の2~3月に、1日に数十社が参加し学生が興味のある企業ブースを訪問する合同企業説明会を実施してきましたが、コロナ禍で一か所に多くの学生を集めることが難しいこと、また、ざわついた雰囲気の中で一社当たりの説明時間も短く企業理解が深まりにくいことから、昨年度より個別形式の企業説明会に方式を切り替えました。

1社90分の単独の説明会を1日最大で3回、約一ヶ月かけて37社実施し、延べ250人の学生が参加しました。

時間をかけて落ち着いた雰囲気の中でじっくり企業研究ができることや、終了後のフリートークの時間で細かい質問やオフレコ話もできることなどから、企業・学生双方の理解が進み好評でした。

時間をかけて落ち着いた雰囲気の中でじっくり企業研究ができることや、終了後のフリートークの時間で細かい質問やオフレコ話もできることなどから、企業・学生双方の理解が進み好評でした。



静岡県立浜松大平台高等学校 教諭

やまもと
山本 のぞみさん
(旧姓:東堂)
2004年 デザイン学部技術造形学科 卒業



掛川市でも自然豊かな地域で、友達と遊びまわって育ちました。いろいろなことに興味を持って手を出しましたが、長く続くものではなくて。ただ中学生のころから大学への憧れがありました。それは「大学では自分で自由に勉強できるよ」という父の言葉があったから。自分が好きなもの、綺麗だと思うものの近くにいたいという思いがありました。その時はまだ、そういったものを「作る」のか、または「関わる」のかは漠然としていた記憶があります。高校に入ってから美術大学を志望して、画塾にも通いました。

SUACとの出会いは、アクトタワーで開催された学校説明会でした。地元でデザイン系の勉強ができる新しい大学の存在を知り、「SUACの一期生には今しかねない!」と。実績がないところも不安より面白さを感じました。入学した技術造形学科はいわゆる美術大学とは違い、技術とデザインの融合を目指す珍しい学科。その点も魅力でした。教職員も学生も、どんな大学にしていくなか手探りだったと思いますが、だから面白かったのかなと。コンピュータ室に入り浸っていた学生生活でしたが、一方で炉を使った金属工芸の授業が印象に残っています。専門分野以外の演習授業の経験が、現在の教員生活にも活かされていると感じます。

所属したのは長嶋洋一先生のゼミ。当時はまだインスタレーションやメディアアートが珍しい時代で、そこに惹かれました。面白いことを自由にやるゼミで、学内で作品を展示したり、学会に連れて行っていただいたり、長嶋先生からいろいろな課外活動の提案をしてくださいました。受け身な学生だったかもしれないけれど、提案されたものにはまず参加してみる姿勢で取り組みました。

制作していたのはインタラクティブな反応をするオブジェ作品。見た目に大きな特徴はないけれど、近づくと震えたり、触ると音が出たり。初歩的な仕組みですが、作品と鑑賞者が対話するような作品を作ることが多かったと思います。

学生時代よりも社会人になってからのほうが、糸の切れた風のように活動的になった気がします。スキューバダイビングに没頭して平日も海に出かけていくこともありました。卒業後に就職したのはWeb制作会社。Webもインタラクティブな素材を持つ媒体として

興味があったからです。職場に恵まれ仕事はとても楽しくて、朝から夜遅くまで働く日々。Web制作の企画提案を中心に、デザインや使いやすさを考えることはやりがいがありました。しかし忙しい中で体調を崩してしまい休養することに。そんな折にSUACを訪れる機会がありご紹介いただいたのが、浜松工業高校デザイン科の臨時実習助手の仕事でした。とんとん拍子に採用が決まり、教育の現場へ。急に「先生」と呼ばれて最初は戸惑いもありましたが、これまでSUACで学んだことや前職でやってきたことが活きていると感じましたし、だんだんと生徒に教えることも楽しく思うようになっていきました。7年ほど浜松工業高校に勤めた間に、周囲のすすめもあり、高等学校(美術)の教職資格を取得。その後、静岡県の教員として採用され、いくつかの高校に赴任し現在に至ります。

これまでを振り返ると、節目でパズルのピースがパチッとハマっていき感じで、「人生はつながっているな」と感じています。いただいたご縁に恵まれ、まずは飛び込んでみることで思ってもいなかった場所に立っています。自分の好きなことや興味のあることをやっていけば、遠回りをしているように見えても筋が通った生き方になる。生徒にはそんなことを伝えていけたら。今は周りの先輩方に助けられながら、子育てと仕事を両立する教員生活ですが、私もいつか、その温かいバトンをあとに続く後輩につなぎたいと思っています。



大学時代に制作した作品「うたかた」

陶芸の窯入れを生徒に指導する山本さん

Profile

掛川市出身。2000年、第一期生としてデザイン学部技術造形学科に入学。卒業後、Web制作会社を経て、浜松工業高校デザイン科臨時実習助手。その後、静岡県高等学校教員(美術)として採用される。清水南高校、小笠高校を経て、2021年より現職。

編集後記

今号では、本学の地域貢献について焦点を当てました。地域に必要とされる大学となるよう、本学は数々の地域連携事業を推進しています。連携先のみならず、学部生・大学院生の学びにもつながるなど、良い相乗効果も生まれています。地域に貢献する本学を、引き続き応援よろしくお願いいたします。【広報誌に対するご意見、ご感想をお待ちしています。第14号は2022年3月の発行予定です。】